ハート・オブ・ゴールド 通信

vol.18

2007年12月25日 発行
発行/編集　ハート・オブ・ゴールド事務局
本部　〒701-1213 岡山市西辛川872-2
T&F 086-284-9700
メール:hginfo@hofg.org
※メールアドレスが変更になっています。
URL : http://www.hofg.org/

ウオーキングでの交流
代表と車椅子の少年

カンボジアの現状を勉強
地雷撤去作業の見学

ご挨拶

HG発足10周年を迎えて

理事長　萩原　隆

内外共に多事多難であった今年2007年もあとわずかとなりました。カンボジアにおけるスポーツ育成、障害者自立支援、義肢・義足支援、エイズ孤児救済を主軸に活動してきたハート・オブ・ゴールドも発足10周年を迎えます。2006年以降のJICA草の根技術協力は、今年カンボジア国小学校保健体育科指導要項の出版という成果を挙げることができました。これら海外援助活動のシンボル的存在であるアンコールワット国際ハーフマラソンも、年々参加者が増え、今年は内外39カ国1地域2,430名の参加者で第12回大会を無事終了することができました。

『石の上にも三年』、『面壁九年』などと申します。経済的困難に加え政情不安を抱える発展途上国への援助活動は決して平坦なものではありませんでしたし、今日現在なお課題は累積していますが、私たちの活動が十年という歳月に耐えたことで、世間の評価も高まっていることが感じられます。このことはひとえに、会員の皆様、スポンサー各位、そしてスタッフ同志のご協力があったればこそと感謝に耐えないところです。

2008年を迎えるにあたり、ハート・オブ・ゴールドは更なる使命感に燃えて業務にまい進する覚悟でございますので、皆様の変わらぬご支援を切にお願い申し上げてご挨拶とします。　(2007.12.11)

スタディツアーCD写真集がご入用の方は、事務局までお申し出ください。

アンコールワット国際ハーフマラソン&ウォーク2007

第12回目、ますます前進しています！

2007年12月2日（日）第12回アンコールワット遺跡周回特設コース（AIMS公認）で開催されました。

過去最高の39カ国1地域、2,430名（マラソン2,157名、ウォーキング156名、バイカー117名）が参加し、本年も盛大に開催されました。たくさんの参加者のみなさん、ボランティアのみなさん、またご支援くださる協賛、協力企業、及び団体のみなさまに支えられ、大会は無事に執り行われました。

当日は、曇り空から徐々に晴れ、フィニッシュの時間にはランナーたちの笑顔を一層明るく照らしていました。本年度は昨年に引き続き、公認レースにふさわしく計測チップを利用し、時間測定精度を高めました。現地NGOとの連携も継続、更に、少しずつですが当大会の現地化に向けて、歩を進めました。

今年も有森賞として、カンボジアから2名のランナーを、来年4月に行われるかすみがうらマラソンに招待することになりました。義足ランナー1位のセク・オウンさんと、ハーフマラソン2位のモック・プントゥーンさんです（1位はイギリスの方）。モックさんは、長年このアンコールワット国際ハーフマラソンに参加してきた方で、この度の受賞に感激されていました。

また、前日の世界エイズデーにちなんで、昨年に引き続き、現地NGO　CHEMS（Cambodia Health Education Media Service）の協力を得て、HIV/AIDS予防キャンペーンブースを設置しました。300余名の来訪者があり、青少年のHIV/AIDS予防教育に貢献することができました。

<プレイベント>2007年12月1日（土）

アンコールワット・ウォーキング当日は世界エイズデー。レッドリボンのデザインと、今年のスローガン『Youth Power Stops　Aids』がプリントされたTシャツを着たカンボジアの子どもたち122名（チェイ小学校HGむつみ日本語教室、るしなチャイルドケアセンター、雀の学校）、日本からの参加者34名、その他アンコール小児病院からのボランティア医療スタッフが参加しました。日本語教室の生徒たちがとても流暢な日本語で挨拶し、お礼の気持ちを伝えて、日ごろの成果を聞かせてくれました。

最後にはカード交換ゲームをして、いつもはいっしょに勉強をしないほかの学校の子どもたちや、遠く離れた日本の方々とサインの交換をしました。それぞれが集めたカードは各自が持ち帰り、再会するまでのよい思い出となることを祈ります。

また、昨年に引き続き、ウォーキングとほぼ同時刻、この大会趣旨に賛同する米国NGO、VFI（Village Focus International）が運営するバイクラリー（68名）とレース（49名）が行われ、大会の盛り上げに一役買いました。

夜には、国際ランナー、日本からのツアー参加者、カンボジア政府関係者が300名ほど集い、前夜祭が開催されました。

篠原勝弘在カンボジア日本国大使からのご挨拶、協賛企業様への感謝状の授与などが行われた後、カンボジアの伝統舞踊とディナーブッフェを満喫する盛大な宴となりました。

<主催>カンボジア陸上競技連盟・カンボジアオリンピック委員会
<特別協賛>第一三共株式会社　<協賛>(株)アス・ワン、(株)小学館、CAMBREW LTD.
<特別運営協力>NPOハート・オブ・ゴールド、NPO日本医師ジョガーズ連盟

NCCC 男子寮完成
(New Child Care Center)

スタディツアーでは、早速、完成した男子寮を視察。NCCCの子どもたちが「こんにちは。」と可愛らしい挨拶で出迎えてくれた。

ツアーに合せた完成セレモニーでは、NCCCで働くカンボジア人の女性の司会で、るしな松本さんからは、これまでの経緯や子どもたちの様子、そして子ども達への希望が語られ、また、大隈棟梁からはNCCC建設へ関わることになった経緯と、男子寮建設の"パートナー"であるNCCCの子ども達とスタッフの紹介がありました。

子ども達は、少し恥ずかしそうに顔をふせながらも、カンボジア式の挨拶をしてくれました。

有森代表もお祝いの言葉を述べ、「どんな状況でも、自分自身が諦めずに前へ進めば、できないことはない。未来に向かって自分の力を信じて歩んでいってほしい」と、力強く子どもたちに語りかけていました。子ども達からは、HGの協力への感謝とお父さん（松本さん）への愛情、大隈棟梁への信頼に満ちたお礼のメッセージとともに、女の子たちのアプサラダンスの披露がありました。マラソン前夜祭で出てくる踊り子のような派手な化粧はなかったけれど、子どもとは思えないほどの女性らしい動きに見入るほどでした。ツアー参加者からはメッセージカードとプレゼントが贈られ、テープカットとくす玉割りと続き、男子寮見学後に、手作りのお菓子やフルーツでお祝いを締めくくりました。

まさしく"New Land"。

この土地が子どもたちのホームとなって力を与え、夢が育まれ、近い将来、大きく羽ばたいてくれることを心から祈ります。

※11月11日、男子寮に土浦市国際交流協会の視察団が訪れました。

カンボジア小学校 保健体育科指導書作成支援事業

7月末、印刷製本された指導要領は、教育省本局から地方教育局を通じて、カンボジア全土に配布されました。現在、教育省では、その指導要領に基づいて、現場の先生が保健体育授業を実施できるように、教師用指導書の作成に乗り出しています。それと平行して、HGアジア地域事務所は、筑波大学等との連携で日本の専門家を招聘し、行政官や教師に対するワークショップを開催しています。

プロジェクトが始動してから1年10ヶ月。HG会員の方々から多くの温かいご声援を頂き、また翻訳等のプロジェクトのお手伝いを頂いています。今、プロジェクトは、架橋を迎えております。今後も引き続き、皆様の温かいご指導を賜りますよう、宜しくお願い致します。

（アジア事務所所長　山口拓）

中古ボールご支援に感謝

本事業のなかで、2008年1月に行われる研究指定校での合同指導会で使用し、その後各校に持ち帰り、授業で使用するボールを確保するため、第Ⅰ期（10月～11月20日）、第Ⅱ期（11月21日～12月20日）に、中古ボール支援をお願いしました。

おかげさまで、第Ⅰ期分の187個は、既にスタディツアーにて持ち込みました。その後も随時現地に届けます。

ご支援いただきました個人ならびに団体の方々、ご尽力いただきました方々、ありがとうございました。今後も引き続き、集める予定ですのでよろしくお願いします。

第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」

11月2日（金）～6日（火）、岡山県総合グランド

○自主企画イベント

シンポジウム「海の向こうの友だちに教えてもらったこと！」

日時：11月3日(土) 15:00～16:30

司会：小川秀樹氏(HG顧問)

パネリスト：桧尾睦氏(HG日本語教室)、多田朋子氏(岡山市立福島小学校・教諭)と児童、森健太郎氏(岡山学芸館高校・副理事長)と生徒、チュン・スライミーさん(留学生)、ラック・サナさん(留学生)、田代邦子HG事務局長

カンボジア教育の現状が理解でき、両国の生徒の交流により、日本の生徒が得るものが、非常に大きい。

○HGブース

"国際交流・貢献のひろば"にて、連日スタッフとボランティアさんで資料配布とグッズ販売を行いました。また、休日の3・4日には、岡山市立津島小学校6年国際協力チームの児童10名が資料配布に協力。ひときわ元気な声がブース前に響き、盛況となりました。

スライミーさん、来日留学

文化祭にて友人たちと（右より2人目）

HG日本語教室(シェムリアップ)のチュン・スライミーさんが、岡山学芸館高校に留学のため、日本語教室の桧尾睦先生に付き添われ、9月に来日されました。期間は1年間で、スライミーさんの留学生活を支えるハート・ペアレントも集まりました。

★スライミーさんからのメッセージ

私は日本に来て2か月経ちました。2か月の間に岡山学芸館高校で、高校生活も送れるし、文化祭や体育祭なども経験できたりして、とっても感動しました。日本はカンボジアより、色々な物があってとっても物質的に豊かな国だと思います。私が住んでいる桜寮は電気もあるし、きれいなトイレもあるし、シャワー室や水道や洗濯機もあるし、とっても暮らしやすいです。カンボジアの村の生活に比べると、全然違います。私がこんな日本で便利な生活を経験できるのはすべて皆様の、おかげです。いつもご協力いただいて心からとっても感謝しております。今、私は楽しい生活をしていますが、いつもカンボジアの家族の事と友達の事を考えて生活しております。「今、私と同じように楽しんでいるのかな」と思っております。私は日本に来ることができたのはとってもラッキーな子だと言われました。普通は村の人々は日本なんか来ることができません。だから私はこんな素晴らしいチャンスをもらえたので1年の間に日本の事を色々勉強し、カンボジアに帰ったら、日本とカンボジアのかけはしになるような仕事をしたいと思っております。その時も応援していただけませんか。私は今、学芸館高校で英語の勉強も始めました。分からないけど何でも頑張っていこうと思っております。

コーラス部にも入って毎日歌ったり、踊ったりしております。とっても楽しいです。

（スライミーさんがハート・ペアレントさんに送ったレターから抜粋。とっても丁寧なきれいな字で書かれてありました。）

やっと、やっと、やっと…コンテナが来ました！

<NPO>バリアフリー教育ネットワーク（代表：上田学 氏）より車椅子の寄贈ならびに輸送をご支援いただきました。また、大阪教育大学附属天王寺中学校の生徒の皆さんには、物資の梱包やコンテナへの積込作業をしていただき、大変お世話になりました。

CDAF（カンボジア障害者陸上連盟）をとおして各団体に車椅子を配布しました。

HGの倉庫に眠っていた物資も一緒に輸送していただきました。

- - - - - - - - - - - - - - - - - -

コンテナは土曜日の夜に来ました。7人の現地の作業員が、雨のなか不服も言わず、黙々と作業してくれ、アジア事務所側も助かりました。ものをあげるだけ、お金を配るだけの援助は…などと言われがちな昨今ですが、実際彼らは必要なんです。神妙な面持ちで感謝の言葉を述べられて、涙が出そうでした。顔が見える支援ができてよかったです。

突然舞い降りてきた寄付の話でしたが、特にCDAFも時間の都合をつけて片道3時間半のコンポントム地方へ同行したり、書類を作成したり、よく動いてくれました。これがCDAFをとおしての寄付であり、責任も彼らに生じているということを十分理解してくれていると思います。ありがとうございました。　（アジア事務所 高道陽子）

第20回記念豊丘村駅伝大会

大会前日のウェルカムパーティでは、村長さんをはじめとした大会関係者、ランナー、子ども達が参加。和気藹々とした雰囲気の中で、子ども達から有森さんへ、多くの質問がよせられました。

チーム・ハート・オブ・ゴールド

「つらい顔をしてもいいけど、いやな顔はしてはだめ！」という有森代表から子ども達への応援メッセージには、神妙な面持ちで聞入っていました。

当日は、54チームが参加して、天竜川沿いの5区間を走り抜けました。豊丘では「走る」ことを「とぶ」というそうです。

朝方はマイナス2度と、例年にない寒い一日とのことでしたが、子どもから大人まで、たくさんのランナーが元気にとびました。

第1回吹田中の島チャリティ・バイアスロン＆3時間走

日時・場所：9月23日．吹田中の島公園～神崎川河川敷（特設2.5km）
主催：HG、吹田龍舟倶楽部、吹田中の島ランナーズ
後援：吹田市健康づくり推進事業団、吹田市陸上競技会、㈱入谷住研
協賛：山崎製パン㈱、クレーマージャパン、ウイズコーポレーション、関西工芸、ニュウスポーツ

残暑が続くなか迎えた大会でしたが、参加者は元気いっぱい事故もなく走りきりました。バイアスロン（2人1組）の参加者が少ないなか、小学生の参加者は大人に負けず頑張って走り、初の試みであるゲームも夢中になってクリアし、お父さん、お母さんにタスキをつなげていました。

次回大会は、より多くの皆様に参加していただけるよう、より楽しめる工夫を凝らしたいと思います。

今大会でいただきましたチャリティ総額は、88,703円です。ありがとうございました。

2007年度岡山県技術移転プログラム研修生 チャン・タウンさん

とても笑顔のすてきなタウンさん。研修に行った小学校では、ほんの短い期間にもかかわらず、子ども達の人気者となっています。

日本での様々な研修、活動にも積極的で、日本語も一生懸命習っています。時間がいくらあっても足りない様子です。

活動だより

◆HG/飯田クラブ

11月23日　第20回記念豊丘村駅伝大会（長野県）

※CDAF半期支援、ソカー自立支援

※スタディツアーに参加して、感動と喜びを胸に、来年も必ず行くことを約束しました。私も初めての海外で色々な勉強をしました。（羽場一雄）

◆東日本支部

9月28日　浦安・市川南ロータリークラブ合同例会（代表講演）

10月19日　第6回みなと環境にやさしい事業者会議（代表講演）

11月25日　第32回河口湖日刊スポーツマラソン

12月18日　HGクリスマス・チャリティ・ディナー

（東日本支部リーダー　志澤公一）

◆西日本支部

9月23日　第1回吹田中の島チャリティ・バイアスロン＆3時間走

※スタディツアーにてアンコール小児病院に車椅子3台を寄贈

（協力：川村義肢株式会社 http://www.p-supply.co.jp/）

※3月の「千里国際チャリティラン」のボランティア募集します！ご協力よろしく。

（西日本支部リーダー　武藤勝行）

◆本部

10月21日　第22回ヒロシマMIKANマラソン

11月2日～6日　まなびピア岡山2007出展シンポジウムの開催

11月11日　いびがわマラソン

HG CYA-JYA 企画ツアーの募集

◆「自然環境と暮らしのつながりを考えよう」

カンボジアの自然、建築、都市（シェムリアップ）を観察し、日本とカンボジアの暮らしの違いを考える。手作り作業や家庭訪問をとおしてカンボジアの人々と交流。

2008年2月20日～27日（6泊7日）

◆「カンボジアで、みんなで作った道具で一緒にラクロスをしよう」

「Lacrosse Makes Friends」を合言葉にカンボジアと日本の学生をつなぐ。道具作り、ラクロス大会、学校での体験など。カンボジアという土地でスポーツを楽しむ文化が根付く可能性を探る。

2008年2月28日～3月8日（9泊10日）

◆「"Hygiene induce to be good helth" 健康のために、衛生に注意しよう」

劇、クイズなどの手法を用いて、健康、保健衛生の重要さについて子どもたちに伝える。昨年度に続く、HG CYA-JYA活動。

2008年3月15日～22日（7泊8日）

＊希望者は本部事務局までお問い合わせください。

2007年会費（新規/継続）受付中！　三菱東京UFJ銀行 岡山駅前支店（普通）0931214 ハート・オブ・ゴールド